

- ・ぶん文 Bun レビューは、手書き・PC入力を問わず 200 字以上の記載をお願いいたします。
- ・原稿用紙 1 枚におさまり切らない場合は、複数毎ご利用ください。
- ・レビュー内容はお名前含め(ニックネーム可)館内掲示やホームページなどの WEB コンテンツとして活用させていただきます。
- ・レビュー対象は、一般図書・漫画・視聴覚資料と、ぶん文 Bun にある蔵書のすべてです。

五年前、東京で安野光雅展を観た。美しい風景画の数々に、司馬遼太郎と旅をしながら描いた作品が並んでいた。司馬さんとは、とても大きな存在でした。と添えられていた。カテリエの書棚に、竜馬がゆくが整列していた。司馬作品。私は子冊全てを抱え、即借りた。はじめりから、どっぷりと、この勢いのある長編の世界に夢中になった。次々と出て来て、竜馬をとりまく登場人物達が個性豊かで面白。さらに何と、でも竜馬の大らかさが気持ち良かった。誰もか「竜馬の度量、海のごと」と言った。たとある。子巻読み終えるまで、この半月、私は、自分の中に、ずっとと、竜馬がいるような感覚を楽しんだ。日々、のいろんかな場面で、そりゃいかんぜよ。何レちやうど、ジ、ち、とも長いと感じながら、読み終えるのが惜しい程だった。初めての司馬遼太郎の小説。そこには、本当に大きな存在が、あふれていた。

『竜馬がゆく』

楽しんだ資料の名前

レビュー者名: かなるく
 ぶん文 Bun 名前(または匿名希望):
 [/] 枚目

20 × 20

椎葉村図書館
 ぶん文 Bun

